

「患者さんに安心していただける、最良の医療環境を」 専門性の高い検査・診断で、大隅の地域医療を担う。

医療法人 愛誠会 **昭南病院**

曾於市大隅町

診療科目 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、人工透析内科、内視鏡内科、糖尿病内科、外科、消化器外科、整形外科、心臓血管外科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、放射線科、リハビリテーション科



「患者様本位」と「医師が納得のいく医療」が診療のモットー。細かい部分まで説明し、じっくりと話し合って治療法を選択する

「すべては地域のために」 充実した医療環境を構築

大隅の地域医療を担う昭南病院は、14（非常勤対応含む）の診療科目を持ち、リハビリテーションや訪問診療、救急対応まで総合的な医療サービスを提供している。「地域を維持していくために、私たちは地域に愛される病院でなければならぬ」と語る朝戸幹雄院長。そのためにソフト、ハードの両面で質的向上を追求し続けている。

昭南病院では、つねに患者さんの立場に立った対応を心がけ、誰もが納得して治療を受けられるよう、診断や治療法についての説明を十分に行っている。また、病気にについての知識、病気予防のアドバイスや医師や看護師が講義する啓発活動として、受診待ち時間を活用した「ミニ健康教室」も週に1回実施している。これには、医師と患者さんの知識の差を埋め、コミュニケーションの強化を図る狙いもある。

ハード面では高性能な検査機械を積極的に取り入れてい

る。1・5テスラのMRI、64列CTは定期的に新しいものに更新。また、平成26年8月に消化管造影装置、12月にはX線血管造影装置も新たに導入。これらは微細画像で小さな異常を見つけられるのが特徴で、病気の早期発見に威力を発揮する。

地域医療の向上のために医療連携の構築も進めていて、地元9つの医療施設が参加。患者さんにとって最善の医療を提供できる体制となっている。救急搬送の患者さんについても、すみやかに適切な医療機関が受け入れられるような仕組み作りにも取り組んでいる。

専門性の高い診療科目で 大隅地域の健康を支える

各診療科に専門性の高い医師が揃っていることも、昭南病院の特徴である。朝戸院長は放射線科医で、画像診断を担当。IVR（血管内治療）の専門医でもあり、動注療法（悪性腫瘍などに対して動脈から直接薬剤を入れる）やリザーバー留置術（皮下に血管内に薬剤を注入するためのカ

テーテルを埋め込む）などにも取り組んでいる。画像診断レポートの作成も朝戸院長が行う。そのデータは病院内で共有化し、各医師が即座に見られるようになっていく。

臓（肝炎、肝臓癌、肝硬変など）や泌尿器（血尿、排尿障害など）に関する医療需要も増加しているという。肝疾患に関しては発見から治療、予後まですべてが収束できるように仕組み作りを進めている。

また、泌尿器科では人工透析も実施されている。担当の奥昭一医師には「病院に通うのは辛いこと。でも、日々を楽しく過ごしてほしい」という思いがあり、患者さんが前向きになれる雰囲気作りを心がけている。

リハビリテーション部門も充実。28名の専門スタッフを配置し、訪問リハビリテーションにも対応する。患者さんのニーズに合わせたきめ細かなサポートで、日常生活への復帰までをしっかりと支える。

高齢化地域だからこそ 重要度を増す検診事業

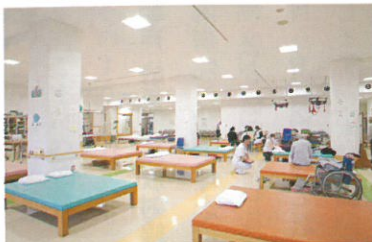
「地域の人が笑顔で暮らせるように」という願いのもと、昭南病院では、早期発見・早期治療、日常生活の中での予防も重視し、検診事業にも力を入れている。年間で人間ドックを約350件、検診を約2500件手がけていて、担当の愛甲進医師は「検診を受ける習慣を地域に根付かせたい。早期発見・早期治療も大きな目的ですが、健康について見直す機会にしてほしい」と薦める。検診ドックには、病気の発見だけでなく、発症につながる素地も見極めて未然に病気を防ぐという側面もある。同医師によると、検診は1年に1回、人間ドックは2年に1回のペースで受けるのが理想だという。



昭和21年に開院。平成16年に現在の場所に新築移転した



放射線科医の朝戸院長が画像診断を行う。レポート作成には音声入力システムを導入



広々としたリハビリ室。脳卒中のリハビリ、心臓のリハビリ、呼吸器のリハビリ、整形のリハビリと幅広く対応



1.5テスラのMRI。従来型よりも口径が1.5倍ほどあり、幅も10センチほど広い。心理的な圧迫感が小さく、狭い場所が苦手な人にも優しい



院内にはCDE（糖尿病療養指導士）の資格を持つ看護師・薬剤師がいる。生活習慣相病談室でアドバイスを受けられる



地域社会への復帰のために個人個人のニーズに合わせて、リハビリをサポート

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
8:30~12:30	○	○	○	○	○	○	○	△
14:00~17:00	○	○	○	○	○	○	○	△

Doctor Profile



院長 朝戸 幹雄
鹿児島大学医学部卒業
●日本放射線科専門医
●日本IVR学会認定医
●腹部ステントグラフト指導医
●医療安全管理者（全日病）

Data

医療法人 愛誠会 昭南病院

tel. 099-482-0622

■FAX 099-482-5357
■住所 曾於市大隅町下窪町1番地
■e-mail info@aisei-kai.com
■URL http://www.aisei-kai.com/
■駐車場 100台
■アクセス 東九州自動車道曾於五郎インターから車で3分
■関連施設 ケアセンターやごろう苑、北地域診療所、大隅地域訪問看護ステーション、大隅町在宅介護支援センター、総合在宅ケアセンターやごろう苑、ケアステーションすえよし、ケアステーションありあけ、ふれあいの家・おじゃったもんせ、グループホーム・あがいやんせ
■病床数 154床

地域のことを第一に考えて 納得のいく医療を追求

院長 朝戸 幹雄 (放射線科)

昭南病院の基本理念は「私達は、患者様に安心して頂き、自らも納得できる医療を追求します」。すべてが、この理念にのっとったものです。医師はどうあるべきか、患者さんとう接するの、施設や設備は何が必要か……。そういったことをつねに考え、最良を目指しています。

医療機器についても、新し

くて高度なものを揃えるようにしています。これも患者さんの立場で考えてみて、「地域にとって必要なもの」だと判断した結果です。最近導入したもののひとつに、Innova ICS-60(GEヘルスケア製)というX線血管造影装置があります。この機械は、立体的に見られることと微細な画像が特徴。そして、結果が瞬時(約10秒)に出ることも強みです。この正確さと早さは、診療戦略を大きく変えます。小さな異常も早期に発見し、治

療すべき場所を正確に特定できるため、より効率良く、より確実な治療が可能になります。また、消化管造影装置も新たに導入しました。こちらも、これまで以上に正確な診断を実現できるものです。医療器械の充実など、病院をより良いものにしていくのは競争に勝つためではありません。あくまでも地域を守るためであり、「競争」ではなく「共創」であるべきなのです。大隅地区には多くの病院がありますが、協力して地域

医療の質を上げていきたい。そこで、お互いの顔が見える連携を目指しています。具体的には、どの病院に何の専門医がいるのか、どんな装置があるのか、夜間の救急対応はどうしているのか、といった細かな情報の共有です。もっとも適切な医療を受けることが、患者さんにとってはいちばん大事。それを実現できる仕組みを「共に創り」ます。

何でも気軽に相談できる、 安心を与える場所でありたい

医局長 奥 昭一 (泌尿器科)

ここは高齢化率の高い地域。でも、元気なお年寄が多い印象ですね。その反面、これまで元気だったのに急に体を悪くされる方も少なくありません。泌尿器科だと、排尿障害が目立ちます。風邪薬やアルコールを飲んで、急に尿が出にくくなるというケースも見られます。そんな中で、病院は気軽に相談できる

場所でありたい。「行ってみて良かったなあ」と思っただけで帰っていただける。そんな雰囲気作りを心がけています。「人生を楽しく過ごす」というのが私のモットーです。病院に通うのは辛いことです。が、患者さんにもそんな気持ちで日々を送ってほしいと思っています。食事制限や人工透析は「辛い」と思っている人は続ければなりません。療養の中で、少しでも楽しみを持てるようにと考えながら、患者さんと接するようにしています。

そういう雰囲気をもっと出すには病院側のスタッフも「毎日が楽しい」という状態であればならない。「楽しい」という感情は、充実した日々があつて生まれるもの。納得のいく医療を追求し、つねに努力を続けること。それが充実した毎日につながる。昭南病院が提供する医療で、地域の方々の人生を良いものにしていきたいです。



64列CT装置。一度に広範囲を撮影でき、患者さんの身体的負担も少ない



CT・MRIの視察のために、国内外から病院関係者が訪れる。写真はタイからの視察団

人間ドックを受ける習慣を 地域に根付かせたい

外来医長 愛甲 進 (消化器内科)

私がこの病院に来たのは、人間ドックを地域に浸透させるためです。肝臓疾患の診療を担当していますが、この臓器は自覚症状がなかなか出ません。気付かないうちにどんな病気が進行してしまうので、早期に見つけられる機会を持つ必要があります。それは肝臓だけに限らず、体のどの部分の病気にも言えること

です。人間ドック・検診ドックの目的は病気を見つけることです。でも、それだけではありません。自分の体のことを考えるきっかけにしてもらえれば、とも思っています。病気のものの発見だけでなく、「病気を発症するかもしれない」という素地も探ります。それを知ること、生活改善を行ったり、治療が必要なのは早期に対応したりと、未然に病気を防げます。また、リピーターを増やし

たいという思いもあります。理想は2年に1回のペース。それぐらいの間隔で人間ドックを受ければ、仮にがんが見つかったとしても早期のうちに治療できる可能性が高いです。病気になるなければ、あるいは軽いうちに治療できれば、本人にとって良いこと。それだけでなく家族の負担、治療費の負担もなくなります。みんながハッピーになれます。人間ドックを浸透させることで地域の皆様の健康的な生活を守れる。そう思っています。



平成26年8月に新規導入した消化管造影装置。胃などの微細な異常も発見できるようになった

自分を守る、地域を守る 予防接種を受けましょう

病棟医長 吉永 篤司 (一般内科)

「この地域に住む人が、この地域で生涯を過ごすことができるように。」それを実現することが私たちの病院の使命です。お年寄りだけの世帯が大隅地区には多く、家族が遠くに住んでいて一人暮らしのお年寄りも少なくありません。そのような方々にとって余生を過ごすために良いと思われする方法を考えていま

す。現在当院が行っていることとして、医師がその方のカルテを丁寧振り返り、病状の把握を行い、看護師やソーシャルワーカーが社会的な背景などを総合的に把握する努力をしています。患者さんや家族の方と面談を繰り返して、その方にとってよい方法を一緒に検討していく。そういう事を1つ1つ積み重ねてい

ます。私自身は感染症領域も担当しています。インフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチン



宿泊しての人間ドックや健康診断も。ゆったりとくつろげる泊ドック用の個室を完備



健康診断用の待合室は外来待合室とは別に設置